

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4371100431
法人名	特別医療法人 再生会
事業所名	認知症対応型共同生活事業 めくもり
訪問調査日	平成 21 年 3 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 5 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPO くまもと

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4371100431
法人名	特別医療法人 再生会
事業所名	認知症対応型共同生活事業 ぬくもり
所在地	熊本県宇土市松山町1907 (電話) 0964-22-1118

評価機関名	特定非活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15		
訪問調査日	平成 21年 3月 27日	評価確定日	平成 21年 4月 5日

【情報提供票より】(21年 3月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算 9人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨準耐火 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	なし	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月 19日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 91歳	最低 81歳	最高 98歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	くまもと心療病院 松田クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした法人敷地の一角にあり、隣接して小規模多機能事業所も開設され相互交流も可能となり、入居者にとっても良い刺激となっている。緊急時の連携応援体制も整えられ、入居者同士の支え合いにより調理場面での役割分担や連携の良さは際立っている。入居者には達成感と同時に感謝や思いやりの気持ちも芽生え、生活全般にわたってホームを活気あるものになっている。また職員間の連携体制や法人全体の研修体制も整備されており、質の高いケアが提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	居室の環境作りについては、家族に相談して以前から使用していた家具や生活用品を持ち込んでもらい、居室らしく環境を整えた。家族と過ごす時間や居室で過ごされる時間が増えたことで、自分らしい生活を支援することにつながっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で取り組むことで、自身の業務への振り返りや改善に向けた課題、ケアの方向性の確認の機会となっている。外部評価結果後は、更に内容を検討し、改善へ向けた取り組みをする予定にしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議ではホーム利用者の状況や活動報告・課題などを議題にあげ、意見交換がされている。会議後には、職員会議を開いて推進会議の内容を検討しサービスの向上に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に話題にするほか担当者による毎月の近況報告を送付することで、家族への信頼を得る努力がされている。運営推進会議への参加もあまり無く、意見要望も出ないのが現状である。意見や要望を引き出す機会を工夫されることが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に参加したり、日頃の挨拶や会話を欠かさないように努めている。併設の小規模多機能事業所の行事に参加することで、地域のボランティアと接する機会が増え、ホームへの訪問者も増えてきている。ホーム独自でも積極的にボランティア受け入れを図ることで交流を深め、地域との連携構築に努められることが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(<input type="radio"/> 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で理念を見直し、地域や家族とともに入居者の能力を活かしながら生活支援できるよう努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝唱和することによって、理念を念頭においたケアを心がけている。理念は常に目につく所に掲示し、訪問者へも理解してもらえるように工夫をしている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事(清掃活動・神社の祭り・敬老会など)に参加し、ホームへの行事参加も働きかけをしている。また散歩や通勤時や外出時には、挨拶や会話を欠かさないようにするなど、日常的な地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価は自分たちのケアの振り返りの機会と捉え、全職員で真摯に取り組んでいる。外部評価結果後に内容を検討し、改善へ向けて取り組む計画をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、ホームの状況・活動報告のほか理念の説明や問題点を報告し意見を求めている。会議で出された意見は職員会議で話し合い、サービスの向上に努めている。	<input type="radio"/>	活発な意見が出される会議運営となるよう、委員の選定や内容の再考が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要な際には関係する担当行政に連絡をとり、意見をもらえる関係としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	写真と共に近況報告を毎月送付している。キーパーソン以外の家族にもホーム便りは定期的に送付し、信頼を得るための努力をしている。金銭の管理は面会時に確認をしてもらう一方で、出納帳コピーも定期的に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族が参加する行事の際に意見を聞くように配慮している。出された意見は運営推進会議や職員会議で検討し、改善に努めている。	○	家族同士の悩みや不満が出せる家族会の設置により、信頼関係の上に成り立つ意見の収集が望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に留め、馴染みの関係を保てるように努めている。また新しい職員にはホーム理念を十分理解してもらえるよう指導もしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催される法人内研修会への参加や、ホーム内勉強会で研修を実施している。職歴や職責に応じた外部研修へも参加し、報告で職員への共有化も図っている。スキルアップや資格取得も奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城のグループホーム連絡会で開催される勉強会に参加することで、情報交換や交流を図っており、職員にとっても良い機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が自宅へ訪問したり本人と家族とによるホーム見学によって、安心して入居してもらえる環境整備に努めている。入居後もホーム内の人間関係を早くもてるよう、特別の配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な家事全般を職員と一緒にいる中では入居者に教えてもらうことも多く、一緒に寄り添い共感できる関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向を的確に把握し、尊重するようにしている。困難な場合は、家族からの情報や生活の様子からアセスメントしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人や家族の希望を聞き、担当者をはじめ医師や看護師の意見も総合して計画作成担当者が計画を作成している。その後、職員の意見等を取り入れて完成させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、計画のチェックをしている。変更が必要であればその都度、計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や入居者の要望に応じた支援を柔軟に行っている。通院や外出等も対支援している。小規模多機能居宅介護事業所も併設しており、必要があれば連携も取るようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医の受診を受けられるようにしている。往診や訪問歯科も受けることができる。通院時には職員が同伴し、病状や状況を報告し家族とも情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を家族に説明はしているものの、病状が悪化してきた場合には改めて、医師・家族・職員とが話し合い方針を共有するようにしている。	○	終末期に向けた介護方針やその方法については、看護職以外の職員にも不安がないよう十分な研修が望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを尊重し、言葉かけや対応に配慮しながらプライバシーの確保に努めている。個人情報保護に関しては徹底を図るようしており、記録関係は事務所保管としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者のペースを大切に、意向を確認しながら周りに配慮し対応している。散歩・外出・買い物等希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や嗜好を取り入れた献立を一緒に作成し、食材の買い物や食事の準備から片付けまでを共にやっている。食事の時間もゆっくり共に過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望や身体状態に応じた入浴支援を行うことで、気持ちよく入浴してもらえるよう配慮している。夜間入浴にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で一人ひとりの能力や生活歴を考慮しながら、活躍場面を提供をしている。それぞれに多くの役割や楽しみがあるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など希望があればいつでも外出できるように努めている。ドライブやスポーツ大会の応援、季節ごとの花見などには家族同伴で出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていないため、さりげない声かけや一緒に出かけ見守りをしている。また、プライバシーに配慮しながらも定期的に所在確認をしている。職員は身体拘束に関して十分理解をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設事業所との協力体制のもと、年に1回はホームが火元の夜間想定非難訓練を実施している。また、ホーム独自でも毎月避難訓練を含めた防災について勉強会をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔機能や嚥下状態に合わせて食事形態を変えるなど、栄養摂取や水分摂取のための工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花が至るところに飾られており、季節感や家庭的な雰囲気の設定になっている。畳コーナーのほか、ソファや椅子が随所に配置されており、入居者は自由にくつろぐことができるようになっている。清潔で安全な室内空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、居心地の良い居室作りが支援されている。仏壇や以前使用されていた家具や電化製品が持ち込まれ、居室に個性がもたせてある。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症対応型共同生活介護事業 めくもり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宇土市
記入者名 (管理者)	大谷 育子(管理者)
記入日	平成 21 年 3 月 19 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念をいつも意識しながら日々のケアを行っていきたいと思う
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域の方々に向けて色々な形で発信し始めたところである。理念と言う言葉は使わずとも私たちスタッフが地域に向けた取り組みを行う中で感じ取っていただけるようになりたいと思う。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	併設の小規模多機能が開所したことで今までより、地域の方とのふれあう機会が多くなった。日常的な付き合いが少ないので出来るように工夫したい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域活動や老人会、自治会などの参加の機会を増していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	母体関係の実習生や中高生の職場体験施設となっており学生に認知症についての説明を行っている。母体の文化祭において認知症の相談コーナーを設け啓発にも取り組んでいる。認知症への理解を深めるため、21年度は地域の方に対し認知症講話を計画している。	○	少しずつ取り組みが定着すれば良いと思う。今後地域の一人暮らしの方などに対して訪問などを行っていかれたらと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で指摘を受けたことは職員全員で共有し、改善に取り組んでいる。一年に一度の外部評価は自分たちのケアを振り返り、立ち止まって考える良い機会となっている。ハード面においても同様である。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の状況・活動の報告に留まらず、問題点の報告も行っている。施設側の取り組み姿勢も示している。また困っていることなどは一緒に考えていただき、頂いた意見や指摘は真摯に受け止め、より良いホームとなるよう努力している。家族代表だけでなく、他の家族にも参加を呼びかけている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題発生時や不明な点などがある場合は市町村に連絡を取り、意見を聞いている。些細なことでも尋ねるようにしており担当者とは顔なじみとなっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	どれだけ理解できているかは不明だが今年度は権利擁護に関する研修が2回あり半数以上の職員が出席した。今後必要性が生じた場合は活用できるように支援したい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもとより、言葉の虐待など発生しないよう、常に「自分が利用者だったら」という視点を忘れずケアを行っていくよう伝えている(特に入職時はオリエンテーション時に何度も伝えている)。職員のストレス防止にも努めている。		虐待を身近な問題として捉えて話しあっていきたい。職員が精神的に追い詰められないよう、また何かあった時相談しやすい上司でありたいと思う。今以上に入居者や職員が生き生きと生活できるよう援助していけたらと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>上手く伝えられない方に対しては関わりの中から探りくみ取る努力を継続していく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>些細なことでも情報交換を行いながら対応していく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>家族との信頼関係をより一層深め、情報交換を行い施設や本人など色々な思いを聞いていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>一人ひとりの意見や思いつき、気づきがとても大事であること。些細なことと思っけていても、重要なこともあるので、何か気がついた時には何でもいいから伝えてほしいと常々伝えている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体や外部の研修会への参加。施設で1回/月担当を決め勉強会を実施している。本人が希望する研修があれば参加できるように配慮している。県で行っている認知症研修へも参加したく申し込んでいるが中々実現しない。介護福祉士、ケアマネジャー、認知症ケア専門士などの資格取得もすすめている。	○ 個別的に研修計画を立て人材育成に取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城グループホーム連絡会で行っている勉強会に参加し交流している。管理者を除いたスタッフのみでの意見交換会が実施され参加、自分たちの悩みを伝えたり他事業所の悩みを聞くことで新たな発見があり、そのことが、実施しているケアの見直しにつながり強いてはサービスの質の向上につながったと思う。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表作成時には希望の休みを聞き趣味などのサークルへは出来る限り参加できるように、勤務もハードにならないよう考慮しながら作成している。また、定期的に懇親会なども行いストレス軽減に努めている。	○ 職員との面接や会話の中から不満やストレスを知り個別に対応していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人で2回/年人事考課を行っており、それを元に面接を行って目標等も確認し向上心をもって働けるように支援している。介護福祉士・ケアマネジャー・認知症ケア専門士などの資格取得もすすめている。	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用について相談があった場合は本人との面談を行い、心身の状況、悩み、不安を聞き思いを受け止め対応している。面談時も信頼していただけるような対応(相手の立場に立ち安心感のある対応)を心がけている。入居後も信頼関係が構築できるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用について相談があった場合は面談を行い、家族としての悩み、不安などゆっくり話を聞き思いを受け止め、それに対してこちらの対応の仕方など話し合っている。信頼していただけるような対応(相手の立場に立ち安心感のある対応)を心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談をうけた場合は本人・家族の現状を把握し、実情にあったサービスは何かを検討しており、必要に応じ母体の地域連携室につないだり、他事業所を紹介したりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用に至るまでに顔見知りになれるよう本人に会ったり、ホームを訪問していただいたりしている。ホームへ訪問時は他の利用者との会話など行い不安の解消に努めている。入居後も早くなじみの関係がつかれるよう、孤独感を味合わないよう配慮している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意なことを一緒に行うことで、利用者に教えていただくことも多い。女性においては家事全般を一緒に行う中で互いに学び合い支え合っている。何か行っていた後は必ずお礼の気持ちを伝えるようにしている。一緒に過ごす中で心に寄り添い共感するように心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族にも電話や手紙等で生活の様子を伝えている。誕生日や母の日等プレゼントを贈っていただいた時には、お礼の電話を本人と一緒にしている。行事やドライブ等には家族にへも声をかけ、一緒に楽しんでいただき、その中で情報を聞いたり、一緒に物事を考えたりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には居室でゆっくり家族との時間を過ごしていただくようにしている。また、手紙や面会の時に家族のことを心配されていることや、感謝されていることなど日頃家族に対して思っておられることを伝えるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友達や顔なじみの方に訪問していただき、楽しく過ごしていただけるよう努めている。また時には、自宅に帰り近所や菩提寺に行ったりしている。	○	全ての人に関係の継続の支援は出来ていない。一人ずつ行っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事づくり等共同で行うことを通し協力したりされる中で互いに感謝の気持ちが芽生えたり、互いの大切さを実感していただければと思っている。時に入居者同士個性がぶつかり合うこともある。しかし、共同生活中でそれも必要なことと考えている。ただ、互いに嫌な感情が残らないよう職員が支援している。利用者の勧めにより飲水や入浴がスムーズな事があ		継続し、利用者が孤立されることがないように、また共同生活を楽しく過ごしていただけるように、スタッフは常に利用者同士の関係性を意識しながら見守り働きかけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院された方には面会に行ったり(利用者によってはホームで馴染みだった方と共に行くこともある)、亡くなられた方には生前のビデオを送ったりしている。退所後にホームに遊びに来られる方もある。		最近入院された方の病院から食事が入らないとの連絡があり、受け持ちを中心に頻回に食事介助や面会に出かけている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人や家族に思いを聞いているが、上手に表現ができない方も多く、日頃の会話や生活の様子をみて、また生活暦も参考にしながらアセスメントしている。言葉で表現できる方であっても言葉の裏にある真意・想いにも考えをめぐらせていくようしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃本人と会話するなかからや入居時・面会時に家族から情報を得ている。センター方式を十分に活用していきたいと思っている。	○	センター方式の活用が出来ていない。勉強会に参加しり自己学習により深めてきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	これまでの生活環境や過ごし方、本人の思いの理解に努めると同時に、心身の状況を確認しながら出来ること、出来そうなことを大事にし総合的な把握に努めるようにはしている。	○	スタッフが全員が個々の利用者の把握が出来るように取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向聞き、受け持ちスタッフ・医者・看護師の意見を総合しながらプランを作成している。特に家族に関しては、一緒に介護をしているという気持ちになっていただきたいとの思いもあり意見を大事にしている	○	介護の意向を聞いても言われない家族も多い。そのような家族の意見をどのように引き出すかが課題である。言いやすい雰囲気、利用者側の目線に立った言動など工夫していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状況に変化があった場合にはスタッフや家族の意見を聞きながらその都度作成しなおしている。毎月のスタッフミーティングの際、受け持ちもモニターリングを行っているので、毎月プランのチェックをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の状態や変化、対応、結果、気づき、会話などを記入するようにしている。情報を共有しながら、本人のケアに反映させている。個別記録を記入することでプランの見直しに活用している。	○	生活の様子だけの記録になっていることも多いのもっとアセスメントの部分が書けるようにしていきたい。記録の時間が確保できないことが多いので検討中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能居宅介護が併設しており、落ち着かれない方や散歩帰りに立ち寄り過ぎていただいている。また、なじみのスタッフとの関わりも大切にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に消防署に参加いただいたり、職場体験の学生を受け入れたり、保育園の園児の訪問も受けている。民生委員の訪問もある。毎月ボランティアの方で行う体操やお手玉は皆さんの楽しみとなっている。		運営推進会議には消防署・警察・老人会長などに参加いただいている。体操・舞踊などボランティアの方もおいでいただいているが、今後はゆっくりおしゃべりをしてくださる方などもさがしていきたい。そしてぬくもりに来られた方が帰られる際心の満足を得て返っていただけたらと思っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者や家族の意向を踏まえながら本人本位の暮らしが出来るように対応している。「今この方に何が必要か」と言うことを常に考えていきたいと思っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では具体的ケースはない。		何かあれば地域包括支援センターや市と協働してすすめていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の要望を聞きながら希望の病院を受診していただいている。必要に応じて往診いただくこともある。初診時や病状が変わったときなどは看護師が付き添うようにしているが、どうしてもできない時は情報提供の手紙や電話にて対応している。手紙での対応の時はDrから看護師に電話を頂くこともある。病状によっては往診していただくこともある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>スタッフに「いつもと何か違う」と思ったときには直ぐに看護師へ連絡するように常々伝えている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>全家族に再度意向を聞いてぬくもりで出来ること出来ないこと、ぬくもりとしての意向など伝えていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>利用者の高齢化に伴い、いつ重度化され看取りが必要になってもおかしくない状況にあると思う。その時に備えスタッフの勉強会や研修会参加を行い態勢を整えたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>利用者の希望の表出がもっと可能となるよう、声のかけ方タイミングなど今後も工夫を重ねていく。私たちが日常的に行っている中でもっと自己決定の場面はないか話し合い、自己決定について、スタッフの認識をたかめていく。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>身だしなみについての支援は行っているが、化粧などについては機会が少ない。女性は化粧により気持ちの変化もあると思うので希望を聞きながら取り入れていきたい。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>今まで一人の方を中心に行っていた食事作りが、少しずつではあるが、多くの入居者が関わられるようになった。今後も一人一人の力にに応じ可能なことを手伝っていただく支援を続けたい。ただ今まで中心になっていた方もこれまでのように楽しんで参加できるよう配慮していく。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>おやつ時の飲み物など皆同じもになりがちなので今後は希望を聞いていくようにしたい(体重増加傾向にある方などに配慮しながら)</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄サインを察知し、誘導・声掛けを行っている。常に無理強いしないよう声かけをし失敗された時は本人が傷つかれないよう声かけを統一している。尿取りパットを時間によって変え対応していることもあり、オムツを使用している方はおられない。ただ認知症の重度化により声をかけても排泄につながらず失禁につながることや直ぐに更衣が出来ないこともある		便通薬の使用により失敗されることもある為、排便の状況をみながら細やかな対応をおこなう。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助が必要な方でも希望により夜間入浴をおこなっている。時間については同時に希望されることもあるが、その時は話し合いで決めたりしている。必ず一人一人お湯の交換・浴室の清掃・物品の移動も行っている。お湯の量も一人ひとり配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心身の状況・生活習慣をみながら、一人ひとりの応じた対応を行っている。夕食後から就寝に向け共有スペース等の明るさを徐々おとすなど工夫している。寝つけない方には状況を見て添い寝、希望があれば居室以外でも就寝可能である。夜間の覚醒が多い方は日中の活動を工夫して睡眠確保に努めている。自室にこもりがちな方は本人の興味のあるこ	○	不眠の方には興味のある活動を取り入れ、利用者個人個人の心身・睡眠の状況を把握し対応していく。個人に合わせて昼間の休息も行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の力や、生活歴、ホームでの生活の様子などを参考にしながら、その方の心が動き、今もっておられる力が十分に発揮できるような場面作りや役割を持っていただいている。また、楽しみのある生活が出来るよう個人の好みを知り対応している。季節の行事も力が発揮できる場面であり多くの方が主役となれるよう配慮している。		日々の生活や会話の中で新たな発見をする時ある。利用者の視野が広がり自信を持って生活していただけるように、利用者への理解をもっと深めていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方がお金を所持されている。所持されていない方でも預かり金の中からいつでも使うことが可能である。買い物に行くことを楽しみにされている方もいる。		継続し現状の能力をいかしできそうな方は所持していただく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により外出はいつでも出来る。買い物や自宅であったり、その方の馴染みの場所にもでかけている。長時間の歩行が困難な方でも外出を遠慮されないよう工夫している。		希望を聞き外出支援を行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員が走る駅伝大会を楽しみにされている方が多く年に2～2回応援に出かけている。また、美術館の催し物・近所の公園など話題を見付け出かけている。季節ごとの花見の時などはご家族に連絡し入居者と一緒に出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも可能であり、必要に応じ援助している。事務所内に電話があるため使用時には席を外している。また、子供様や兄弟の事が気になられる方には電話だけでなく手紙を出すことを勧め一緒に書いたりしている。絵手紙を出すこともある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けていない訪問者の都合のつく時間にお出でいただいている。椅子を居室に運びゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。お茶を出す際、スタッフも一緒に会話に入り楽しんでいる。ただ家族が中心であり、近状の方がこられ方は数名である。近所の方の訪問がもっと増えればと思い、道でお会いした時などは声をかけている。	○	今後も訪問をお誘いし、気軽に来れる雰囲気作りに努めたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことを全ての職員が理解している。言葉や態度での威圧・薬も身体拘束になることも理解し実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていない。玄関以外から出て行かれることもあるが、さりげなく声かけし、一緒に出かけたり事故のないよう見守りをしている。出て行かれる可能性がある方に対しては職員間の声かけや相打ちなどで連携できている。家族も理解されている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら所在確認を行っている。特に離脱の可能性のある方は定期的に確認している。精神面が関係することが多い為確認と共に落ち着いてすごせるような援助も行っている。	○	プライバシーに十分配慮して所在確認を行っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	挟みは希望により持っていただいている。なくされる危険の方が針を持っておられるが、自室の決まった見える場所に置いていただき職員が定期的に確認が出来るようにしている。ハイターだけは鍵のかかるところに保管している。		外出から帰えられた時、何を持ってこられたかわからない時がある。危険物を持ち込まれて時はスタッフに報告されるよう家族に伝えていただくように声をかけていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災については毎月担当を決め、避難訓練を含めた防災について勉強している。誤嚥については誤嚥時の対処法を含め救急訓練として勉強している。転倒や誤薬などについては原因や対策を職員間で話しあっている。また与薬マニュアル作成確認している。個人の事故防止についてはケアプランに取り入れている。		今後は具体的な危険予知訓練の回数をふやしたいと思っている。利用者で行ったことがある、利用者も自分の身は自分で守ると言われていた。こんごもおこなっていき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生普及員の資格を持っている職員を蘇生について学んでいる。その職員を中心に他急変時の対応についても勉強会を行っている。		今後もマニュアルを元に急変や事故発生時の対応について定期的に勉強していく。年に数回定期的に行えるように、勉強会計画に盛り込む。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	11月に消防署を交えた運営推進会議を行っている。5月に行った避難訓練やマニュアルについてアドバイスを頂いている。母体との協力体制は整っており、火災の時は母体に住む職員の応援態勢も整っている。		11月に消防署を交えた運営推進会議を行っている。来年度はこそは消防団のかたに趣旨を理解いただき参加していただきたいとい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時やその他気がついた時にリスクについて話している。リスクへの対応と同時にぬくもりとしての方針も伝え対応策も家族と話あっている。外へ出て気分転換を行うこと、可能なことは自分で行うことの大切さなども伝えている。		家族に抑圧のない生活の大切さの理解を深めていただく為、個別に伝えると同時にぬくもり便りをや家族会を通して、ぬくもりの方針を伝えていきたい。ぬくもりの理念の浸透を図る。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝出勤の職員が声かけや観察を行い必要に応じた健康チェックを行っている。状態の変化に気がついた際は看護師に連絡し看護師の判断で病院受診している。	○	職員の気付きをもっと深めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や作用について直ぐ見れる場所に処方箋を置いている。内容が変わった時、特に観察が必要な時は記録に残し伝達している。高齢の為、少量でもリスクとなりえる。看護師を通じ薬の理解を深めていき、些細な変化でも気が付いた時は報告を行うよう伝えている。		高齢の為少量でもリスクへつながることがある、看護師を通じ理解を深めていき、何か小さな変化でも気が付いたときは報告を行うよう伝えていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食物や水分摂取の工夫や毎日体操を行うなどし予防している。水分摂取量が少ない方はゼリーや寒天を作り摂取していただくなど、個別に飲食物の工夫も行っている。運動が思うように出来ない、方に対してはマッサージなども行っている。		食事内容については栄養士との相談もおこなっているが、利用者の嗜好を把握しながら、今後も食事の内容の検討をおこなってきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内清掃の声かけ、出来ない方は一緒に行っている。訪問歯科による口腔ケアが必要な方はいつでも相談できる体制をとっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取を好まれない方は飲み物をかえたり、スタッフより入居者の声かけの方が飲まれる方もいらっしゃる為入居者に支援していただいたりしている。食事は時間にとらわれず摂取いただいている。おにぎりや粥などの対応も行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルス・インフルエンザ・疥癬・MRSAは勉強会を行い、手洗い、うがい、換気の徹底し常に予防に取り組んでいる。特にノロウイルスについては年に1度栄養士による勉強会を行っている。トイレは次亜塩素酸系の液を用い掃除を行い、トイレの手すり、取っ手も同液で行っている。トイレ設置の汚染物用のバケツ・掃除器具も同液にて消毒行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保管場所や解凍方法についてはとても気を使いながら行っている。残った食物はできるだけ保管せず処分するようにしているが、もし使用する場合は食物の中まで火が通るよう職員に伝えている。調理器具の消毒も定期的に行っている。生物に使用したまな板包丁は洗浄後熱湯をかけ乾燥機使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植え、工夫はしているが、玄関周囲が狭い為難しさもある。近所の方は道路に面した入り口から来られることが多い。玄関を一つと考えず入りやすい場所に スリッパを置いている。		近所の方が入りやすいように工夫を重ねていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬくもりの周囲や施設内の空間、玄関には、気持ちが癒されるように、季節の花を多く飾りたいと思い少しずつ取り組んでいる。ぬくもりで花が準備できない時は母体の花壇や職員の自宅から持参している。また、廊下の壁に季節の装飾を行っている。		玄関が狭い為来年度靴箱等の交換を予定している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースではあるが、廊下にソファやテーブル、居間にこたつを置き、ウッドデッキでも過ごせるように椅子とテーブルを置いている。		スペースの都合十分とはいえないが、ハード面のカバーはソフト面で補っていききたいと考える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さな仏壇や家で使われていた椅子や花など、今までの思いでも大事にしながら過ごせるように配慮している。活動で製作された季節の作品も本人の希望を聞きながら壁などにかけている。それぞれにこだわりを持って物を置かれている。		本人や家族に確認しながら部屋づくりを行っていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行っている。状況により空気清浄機や換気扇を使用している。冷暖房も温湿度計をみながらこまめに調整している。トイレは毎日、次亜塩素酸系の液で清掃している。トイレの換気扇と電気は連動している為、消臭剤等を使用しながら臭いへの配慮を行っている。		トイレの換気扇が電気と連動している為、入居者によっては節電の為、直ぐに消灯され臭いがこもる場合もある。プライバシーに配慮しつつ、説明しその都度清掃や点灯を行うことがある。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室とトイレの手すりを昨年 見直し追加した。廊下のいたるところにソファがある為、自室から居間までの距離を、入居者によってはソファに掴まったり、座ったりしながら移動される。施設の外周に設けている手すりに掴まり一人での散歩を楽しまれる方もある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋の方向を間違われるため、居間の中央の自室の方向に季節の造花をアレンジしを飾り目印にしている。居室がわかりにくい方には目印をつけている。その都度できるだけ自立が出来るように工夫している。		混乱や失敗がないよう、尊厳が保て自立が促せるよう工夫を行っていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関から外に出るとウッドデッキがありそこで、軽食や作業、歌を歌うこともある。庭にある畑に作物を植えたり、周囲に季節の花を植えている。施設の前の運動場に咲く桜の花見を毎年楽しみにしている。運動場に遊びに来る子供たちに声をかけるのも楽しみの一つとなっている。		もっと、昔ながらの花や季節の花、実や花をつける木などを植えて眺めたり、食べたりしながら皆で話に花を咲かせたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年は入居者同士の支えあいに力を入れ取り組んだ。その結果、今まで一步引いて外から眺められていた方も本人の役割ができ達成感が得られるようになったり、ホーム全体に感謝や思いやりの気持ちが芽生えた。今後も理念の下、互いに支えあいながら本人のもてる力を生かし、その人らしい生活が可能となるようさりげない支援を目指したい。